

○議長（小川 廣康君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は4人を予定しております。

それでは、届け出順に発言を許します。2番、伊原徹君。

○議員（2番 伊原 徹君） 皆様おはようございます。2番議員、伊原でございます。よろしくお願いたします。

初めに、12月定例会での一般質問で議会運営委員会での申し合わせ事項の御決定を把握しない状況で質問を進めたため、議事運営が中断したことをまずはおわび申し上げます。

特に、高齢者認知症事業についての質問の趣旨が不十分な状態で終え、じくじたる思いで今日を迎えました。しかしながら、本定例会の会期中に提出されました予算審査委員会の関係資料を確認しますと、新規事業の予定ですが、認知症支援推進員の配置、認知症カフェ設置等についての助成など、高齢者認知症事業について、新年度の施策に反映していただきましたことを感謝申し述べます。

新規事業予定の高齢者認知症に関する予算の御決定は、議会の承認が必要と存じますので、議員各位様の御協力・御理解どうぞよろしくお願いたします。

さて、本日は1点目の環境衛生について、まず、個人住宅における町別合併処理浄化槽の普及率と衛生処理センターの処理能力、2番目に、住宅密集地におけるコミュニティプラント構想について、3番目に、合併処理浄化槽設置後の管理料等の優遇措置についての3項目。

と、それから2点目の観光産業につきましては、有人離島保全に関する特別措置法に基づく「国境観光」を柱とした活性化対策として、1番目に、朝鮮通信使記憶遺産登録プロモーションビデオ化について、対馬博物館、仮称でございますが、対馬博物館を拠点とした滞在型観光へのコース設計、「アンゴルモア元寇合戦記」のアニメーション化に向けた観光施策の7つの項目について、質問をいたします。

まず、1点目でございますが、環境衛生に係るし尿処理等についての質問です。

このことは、12月定例会での黒田議員の質問内容と一部重複する内容も含まれていますが、視点を変えて進めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年の12月議会で市長の御報告では、長崎県汚水処理人口の普及状況は、県下21市町で本市は19番目、ワースト3との御回答でありました。私は、このことは大変ゆゆしき問題だと捉えております。

平成25年11月に策定されています、対馬市一般廃棄物処理基本計画の第4章の生活排水処理基本計画によりますと、し尿処理体系は、くみ取り方式、単独処理と合併処理浄化槽、厳原町阿連にございます集落排水処理施設に分類され、これらのし尿や浄化槽の汚泥処理は市内3カ所のし尿処理施設で処理し、都市部で行われています下水処理施設同様、最終放流先は川や海への

公共水域と記されております。

本市の汚水処理人口普及率は、県下21市町で19番目、ワースト3の32%で、99.6%と最も高い長与町より67.6ポイントも低い状況にあります。

しかし、合併処理普及人口は、平成24年度の9,400人から28年度では1万人を超えており、年平均に換算いたしますと毎年170名程度で、年々増加傾向にあります。

本市は四方海に囲まれ、東西の海岸線に沿ってそれぞれの集落では、いにしえの時代から海の恵みを享受するなど、主要産業として現代社会まで農林業を含む第1次産業が「しま」の経済活動の一助を担っておりました。

余談ですが、みそ汁1杯を希釈するために必要な水量は200リットル、実にドラム缶1本分を要します。

本市では、海の資源環境保全のため、森の再生や藻場を餌とする食害魚等の駆除作業、漁協婦人部を中心に合成洗剤を使わない推進運動、EM菌の放流などの取り組みが行われております。

合併処理浄化槽は、槽内に浮遊する微生物の働きでトイレの汚水、台所、風呂、洗濯水の生活雑排水を真水に近い状態でろ過し放流をいたします。このため、川や海の生態系に影響を及ぼすことなく、豊かな水質保全維持につながることは、科学的に立証されており、普及促進に向けた仕組みづくりが重要です。

ここで質問です。本市では、合併処理浄化槽の普及に向けて、毎年50基以上の設置を目標に補助金が予算計上されております。設置に関して、直近の補助金の支出状況がわかれば教えていただきたい。それから、町別の個人住宅への合併処理浄化槽設置状況について、さらに、隣国からの観光客の急激な増加に伴い、し尿処理施設は限界に達していることと推測されます。よって、市内3カ所のし尿処理施設の処理能力の現状についてお尋ねいたします。

また、汚水処理人口普及率が上がらない要因の一つに、特に、巖原市内などの住宅密集地では浄化槽を設置するスペースがなく、普及率向上の妨げになっていると考えられます。近隣の空き地もしくは空き家等の敷地を利用して、環境省所管で進められていますコミュニティプラント構想での計画は考えられないでしょうか。御見解をお願い申し上げます。

次に、合併処理浄化槽を設置した場合の工事料のおよそ3分の1が、本市の補助事業で賄われていますが、設置後は、浄化槽管理料及び法定検査料や、経年劣化による部品交換などが生じ、経済的な負担が大きく、メリットが感じられないとの意見が寄せられております。

これらの解消と普及率向上のための手段として、年度末の確定申告での管理料の一部でも還元できるように、優遇措置が講じられないでしょうか、お尋ねをいたします。

我が国では、企業活動による排水や排煙が海や河川、大気中の広い範囲で汚染し、住民に健康被害を生じるなど、戦後の高度経済成長期に問題化しました。このため、昭和42年に公害対策

基本法が制定され、その3年後に水質汚濁防止法、さらに翌年には環境庁が設置されるなど、環境行政の制度づくりが進み今日に至っております。

本市においても、公害対策基本法を含めた水質汚濁防止法により、その対策が講じられていますが、厳原町阿連地区の漁業集落排水処理施設及び合併処理浄化槽以外から排出されています御家庭などの生活雑排水の処理普及率をいかに高めるか、喫緊の課題であります。

私の幼少の時代は、磯場でカジメ、ワカメ、ヒジキなどの海藻類が豊富に自生していました。藻場再生のために、関係者によって藻場を餌とする有害生物の定期的な駆除や、植林など海の再生への取り組みが行われていますが、近年では山林の鳥獣被害などにより、海や川へのミネラルを含んだ森からの恵みも失われつつあります。

森の保全と同時に失われた豊かな海の資源環境保全は、21世紀を受け継いだ我々の責務として、子々孫々へ継承しなければならないと考えております。

海の資源環境保全の一助になるよう、本市の污水处理人口をもっと高めるための環境衛生対策についての御見解をよろしく願いいたします。

次に、観光産業についてでございます。

本年4月、有人国境離島法が施行され、特定有人国境離島地域として、8都道府県、本市を含む71の島々が指定され、10カ月が過ぎようとしています。1番目に、航路や空路運賃の低廉化、2番目に、農水産物輸送費負担の軽減、3番目に、滞在型観光の促進、4番目に、雇用機会拡充のための創業や事業拡大の支援など、4つに大別して本市においても既に事業展開が進められています。

特に、島外への移動手段にかかる航路や空路運賃の低廉化は、経済的な側面から一番身近に恩恵を感じているとお声があり、国境離島新法効果は極めて大きな政策と言えます。また、農業や水産業をなりわいとされる事業者にとりましても、手厚い法律制定により、円滑な事業展開が行われ、新たな経済活動として、本市に潤いと活気をもたらしています。

さらに、本議会においても、有人国境離島特別委員会が設置されました。特色ある地域社会の形成を目指して議会一丸となって取り組む所存でございます。

ここで1点目の質問に入ります。

さて、国境離島新法を活用した交付事業の中で、海路及び空路運賃の低廉化、農水産物資の輸送費用の負担、新規創業及び事業拡大につきましては既に進んでいると感じていますが、観光産業に主眼を置きますと、目的地までの移動手段のための国道、県道、市道、未整備箇所が多く点在しています。一部の地域では改良工事が進められていますが、観光目的地まで急カーブや道幅が狭く、大型車両との離合困難箇所があり、安全な走行の解消は不可欠であります。

観光客誘致には、厳原港や比田勝港の海の玄関から、また空の玄関口、対馬空港から観光地目

的地まで、片道30分圏内もしくは1時間圏内で往来できるよう、早急な交通網の整備が求められているのではないのでしょうか。

さて、朝鮮通信使関連資料のユネスコ世界記憶遺産登録が決定いたしました。2年後には、仮称ですが、対馬博物館が完成する予定です。朝鮮との国交回復のため対馬藩が果たした役割、朝鮮通信使に至った経緯、ミュージカル対馬物語など、世界記憶遺産登録にふさわしい内容をおさめた、館内でも上映スペースを含めた朝鮮通信使関連のプロモーションビデオの制作のお考えはないのでしょうか、お尋ねをいたします。

博物館につきましては、本年1月の建設工事起工式まで多大な御労苦があり、このことを決して無駄にすることのないよう、「しま」の観光拠点の一つとして、歴史・文化に造詣の深い国内や訪日外国人観光客を対象に、民泊を活用した滞在型観光を含めた新たなパッケージ型のコース設計が望ましいと考えています。

滞在型観光の楽しみの一つが、「食」の提供です。特に、諸外国の方々には日本食に関心が高く、ヘルシー嗜好でもあります。このため、本市特有の自然食材を生かし、ミシュランガイドに掲載されるよう、オリジナル料理が市内各所の飲食店で、統一価格で提供できる仕組みづくりが求められています。

これらの体制整備を含めて、隣国からの観光客のみならず、アメリカやヨーロッパ方面からの新たな誘客に向けた計画などございましたら、よろしくお願いをいたします。

2点目の質問です。

1月中旬でしたか、40年以上続きます長寿番組の一つでもあります「徹子の部屋」に、歌手のMISIAさんがゲストで御出演されておりました。このことは市長さんのほうにも情報が上がっていると思われます。御本人は、この番組への出演が二十数年来の夢であったそうです。

黒柳徹子さんから、「あなたは対馬育ちだそうですね」との問いに、御家族のことやアジ釣りなど、対馬で過ごされた10年9カ月間の思い出などを淡々と語ってありました。この間、テレビ画面には浅茅湾の景色が映し出され、メディアを通じて対馬の魅力が全国のMISIAファンに発信されていたものと思っております。

さて、今から744年前の鎌倉時代、1274年11月、ヨーロッパまで勢力を拡大していたモンゴル帝国が、元と高麗軍を中心とした数万人の勢力が小茂田浜に襲来し、対馬藩主、宗助国公率いる八十余騎の戦力で、奮戦むなしく多くの人々が犠牲となり、郷土が壊滅的な状態に陥った文永の役として歴史に刻み込まれております。

この元寇襲来を題材として、漫画家たかぎ七彦氏によって、アンゴルモア元寇合戦記として当時の物語を描いた作品が8巻刊行されております。このアンゴルモア元寇合戦記はアニメーション化が決定し、国内外を問わず多くのアニメファンへの情報が発信され、対馬の認知度が高まる

ことと推察をしております。

また、2月中旬に行われました島おこし協働隊・外部集落支援員の年間活動報告会で、エコツーリズムプランナーの上原さんの資料に、「プレイステーション4の海外向けゲームソフトに「Ghost of Tsushima」と題してゲームソフトが発売され、今までになかった視点で対馬のPRができる可能性がある」と記されておりました。

元寇襲来では数十万の大軍との戦いに挑み、命を捧げました第二代当主で時の対馬藩主、宗助国公を祭っているのが小茂田浜神社です。この小茂田浜神社は、明治29年に県社に列し、「対馬島民は、小茂田浜神社の管理を進め、元寇襲来から650年後の大正13年、島民の鳥居の新設や元寇650年記念碑の建設を行った。この記念碑建立は島内外の多くの方々からの寄附で賄われた」と文献に記されています。

また、昭和49年11月に700年記念大祭イベントが開催されました。700年記念大祭当日には、50年に一度しか咲かないと言われておりますメキシコ原産のリウゼツランが神社境内に開花し、700年記念祭にふさわしい地域へのプレゼントになったことは私の脳裏に今でも残っております。

さて、時の対馬藩主を祭った小茂田浜神社でございますが、現在、観光コースの一つとして、多くの方々を訪れていますが、6年後の2024年には、元寇襲来から750年目を迎えます。

このたびのアンゴルモア元寇合戦記のアニメーション化、さらに元寇を題材として、750年目を迎えるに当たって、モニュメント設置などが望ましいと考えています。

歴史に埋もれることのないよう、由緒ある小茂田浜神社を観光史跡として指定されるお考えはないでしょうか。御見解よろしくお願いを申し上げます。よろしく申し上げます。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） おはようございます。伊原議員の御質問にお答えいたします。

まず、1点目の個人住宅における町別合併処理浄化槽の普及率と、衛生処理センターの処理能力の現状についてでございますが、本市では、合併処理浄化槽の普及促進のため、補助金交付要綱を策定し、合併処理浄化槽を設置時に補助を行っているところでございます。補助金の増額につきましては、平成23年第1回定例会の予算審査特別委員会におきまして、補助率のアップはできないのかと質問をいただき、平成23年10月から国の基準額に市の単独上乗せを行い、さらに消極的だとの御意見を受け、平成25年4月より現在の補助金額に増額し、普及促進に努めているところでございます。大体、国、県の補助率を合わせて半分近くが補助というふうになっているところでございます。

次に、個人住宅の町別の合併処理浄化槽の普及率は、巖原町27.18%、美津島町30.03%、豊玉町42.32%、峰町34.76%、上県町25.95%、上対馬町が37.9%で、対馬市全

体で31.1%となっております。

また、平成28年度の合併処理浄化槽補助金につきましては、当初予算額で60基3,715万8,000円に対して、実績で62基4,213万2,000円となっております。

次に、衛生処理センターの処理能力についてであります。御存じのとおり、美津島町根緒の厳美清華苑、豊玉町志多浦の対馬中部クリーンセンター及び上対馬町唐舟志の北部衛生センターの3施設でその処理を行っております。

各施設の平成29年度の1日当たり処理量の現状は、厳美清華苑が、60キロの処理能力に対しまして平均72キロリットルで、1日当たり12キロリットル多く処理をしております。対馬中部クリーンセンター及び上対馬北部衛生センターの1日当たり処理能力は、それぞれ23キロリットル、27キロリットルで、ほぼ処理能力に応じた処理量となっております。

現在、厳美清華苑の1日当たりの処理量調整のため、1日平均約5キロリットルの浄化槽汚泥を中部クリーンセンターへ移送しておりますが、厳美清華苑につきましては、平成30年度に環境影響評価を行い、平成31、32年度の2カ年で処理能力増強工事を行いまして、1日当たり81キロリットルの処理が可能となる予定であります。この処理能力増強工事が完了いたしますと、現在、対馬中部クリーンセンターへ移送しております日当たり5キロリットルにつきましても厳美清華苑で処理可能となる予定でございます。

次に、2点目の住宅密集地域におけるコミュニティプラント構想についてであります。このコミュニティプラントとは公共下水道、農業集落排水と同様に、埋設された排水管によりまして集められたトイレと生活雑排水を合わせ処理する施設であると理解しております。

現在、阿連地区に漁業集落排水処理施設が整備されておりますけれども、この施設は、合併前の旧厳原町が加入対象89戸、総事業費6億7,700万円で、平成15年10月から供用を開始され、同年12月から使用を開始し、平成29年3月31日現在の加入率は70.8%となっております。

御質問のコミュニティプラントにつきましては、住宅密集地など土地が狭く、浄化槽設置場所の確保に支障を来す地域には有用であります。多額の費用がかかることなどから、加入率がある程度見込めることなど、費用対効果も勘案しなければならないというふうと考えております。

対馬市といたしましては、これまでいろいろ検討を加えてこられましたけれども、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第6条によりまして、市町村に義務づけられた一般廃棄物処理計画の基本方針として、合併処理浄化槽の普及促進を図ることとしており、現状ではコミュニティプラント構想はございません。

3点目の合併処理浄化槽設置後の管理料等の税の優遇措置についてでございますけれども、経済的な負担解消と普及率向上のための手段として、例えば確定申告での税の優遇措置が講じられな

いかとの御質問ですが、これは管理料を申告の際、所得控除として取り扱うことはできないかとの質問に当たるというふうに思います。この所得控除は、所得税法、地方税法及び対馬市条例により医療費控除、社会保険料控除、配偶者控除等が規定されていますが、合併処理浄化槽の管理料につきましては、控除項目には入っておらず、税法上、市独自の控除項目とすることはできないものと考えております。

次に、観光産業でございますけれども、国境観光の柱となり得る博物館では、対馬の歴史、文化、自然の映像資料を用いて紹介する総合展示室から、出土品や美術品を通じて古代から大陸や本土との交流の歴史や文化について、より詳しく学ぶことができるような展示を予定しております。また、大小2つの企画展示室を準備し、各種企画展を開催する予定で、他の博物館と協力、協定等を構築し、貴重な資料を展示し、観覧者が興味を抱いていただくための工夫や展示を検討してまいります。

この中で御質問の1点目は、完成後の博物館において上映するプロモーションビデオということでございますが、先月開催いたしました「朝鮮通信使の集いIN対馬」の記念式典で、対馬での朝鮮通信使行列再現のルーツからユネスコ記憶遺産登録までを紹介した映像を制作いたしました。しかしながら、博物館での上映となりますと、新たに企画の段階からつくる必要があると考えます。ミュージカル対馬物語につきましては、100回までは無料で公演できる協定となっておりますが、博物館での上映を前提にした撮影や映像化に関する許可等を確認する必要があると考えております。今後の検討課題とさせていただきます。

続きまして、滞在型観光へのコース設定についてでございます。昨年9月に実施しました韓国の旅行事業者へのアンケート結果では、42社のうち9割の38社が対馬をパッケージツアーに組み込んでおりまして、歴史や文化に強く関心がある結果があらわれております。島外観光客の観光拠点として構築できる展示が必要と考え、平成30年度より企画展示の準備に着手いたします。平成32年の開館に向け広報、情報発信事業に努め、島内外、国外の旅行会社に対し、滞在型観光の足がかりとなるよう、博物館をパッケージツアーに組み込んでいただき、観光、教育の場として活用し、好循環型の社会となるよう取り組んでまいります。

次に、アンゴルモア元寇合戦記の観光活用策についてでございますが、このアンゴルモア元寇合戦記は、元寇の戦いをテーマとし対馬を舞台とした漫画で、初めのうちはウェブ漫画で発信されていましたが、漫画本として角川書店から発売され人気が急上昇し、現在8巻まで発売されており、今年にはアニメ化の予定がされているところでございます。ぜひ、皆様も書店等で購入され読んでいただきたいと思います。

さて、漫画やアニメなどの舞台となった場所に、実際にそのファンが訪れる聖地巡礼と呼ばれる行為による経済効果は、近年さまざまなメディアに取り上げられるほど大きなものとなっております。

ります。このアンゴルモアの人気を好機として捉え、対馬の認知度向上や観光客の誘客、さらにはファンが対馬に御来島いただく際に楽しんでいただけるような仕掛けづくりを行うため、版元の株式会社KADOKAWAアニメーションの制作会社、一般社団法人アニメツーリズム協会と協議を重ね、以下のような取り組みを決定しているところでございます。

具体的には、平成29年12月議会で補正予算を計上し、御承認いただきました対馬限定ポスターの作成や、ウェブサイトでの特設サイト作成、角川書店漫画誌での宣伝、アニメツーリズム協会への加盟等に取り組んでいるところでございます。また、30年度予算におきましても、御当地アニメツーリズム事業といたしまして、顔出しパネルの作成、聖地巡礼パンフレットの作成、バスラッピングなど、かかる経費を計上させていただいているところでございます。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 2番、伊原徹君。

○議員（2番 伊原 徹君） ありがとうございます。

まず、1番目の環境衛生について、それぞれの町別の加入普及率をいただきました。1番高いのが豊玉町で42%、これはやはり浅茅湾とか、また美津島も若干高うございますが、これは三浦湾への放流ということで早くから取り入れておられたと思います。私が今懸念しとるのは、やはり巖原の通称茶屋町、今から先どうしても異臭が漂うんです。これがこのまま巖原港に放流ということになっていますので、この巖原港の排水基準、これは県の手だてでされていると思えますけど、20ppm以下と記憶しておりますが、まだ超過することは恐らくないと思えますけど、やはり将来的に今から何十年同じような状況で、このままでいいのかということがどうしても考えられますので、これやはり環境衛生ということにちょっと少し力点を置いて、何らかの形で浄化槽設置に向けたコミュニティプラントでもよろしゅうございますけど、やはり敷地がない、経済的な面、予算的な面もいろいろございましょうけど、巖原港の南の玄関口に毎日放流しとるわけですから、これの基準値を少しでも下げるように、また普及率を高めるために、何らかの形で行政的な手だてを是が非でも講じていただきたいというふうに考えております。

それから、隣国からの観光客30万人以上と、これ対馬の人口の10倍お見えです。恐らくキャパシティーはオーバーフローの状況だと、私もこれは懸念をしておりました。このためにやはり市の財政、非常に緊縮予算の中での計上して、機器の更新等しなければならないという状況下に来ております。これまた少し時間があれば、後ほど述べたいと思えますが。巖美センターのほうで主になっているんな処理をされておりますが、今後、またこのような状況が続くようであれば、また同じような結果になる可能性もございますので、何らかの手だてを是が非でも講じていただきたいというふうに考えております。

それから、朝鮮通信使のプロモーションビデオ化についてでございますが、これ先般政務調査



で九州国立博物館に参りました。館内に世界遺産に登録された沖ノ島の、10分か15分ぐらいだったと思いますけど、上映がされておりました。非常に感動いたしました。先般、島内で行われました2月の24、25の記憶遺産の中でも上映がされましたけど、やはり観光客を迎えるに当たって、それなりのビデオが、映像が必要かと思っておりますので、これ引き続き研究をしていただいて、どうしてもやっぱり記録として残していただきたいというふうに考えておりますので、これはまた観光のほうでも兼ね合いがございますので、お願いいたします。

それから、昨日から観光の掛け算として、食の提供ということで御質問が上がっておりました。対州そばが地理的表示保護制度に農水省より登録がされたということで、非常に喜ばしいことでございます。今、対馬にお見えの方が、食に対して何を求めてみえているのか、私は今のところ把握はしておりませんが、やはり対馬ならではの食材、これは赤米もそうでしょう、豆豉の赤米、それからしいたけ、それから海産物、鮮魚、それとジビエ、いろんな食材が豊富にございますので、これらの食材を活用したオリジナルな創作料理、対馬ならではの創作料理が必要じゃないかと。特に若い女性の方々は安価な食を求めて観光にお見えになる傾向が強うございます。少しこのあたりのことで計画がございましたら、御見解をお願いしたいと思います。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 今、4点ほど御質問ということでよろしいのでしょうか、はい。

食だけでよろしいのでしょうか、はい。

確かに、今この対州そばのほうはそういうふうなことで認定がされたところでございますし、対馬の特産品でもあります、「せん」もイタリアのほうの「味の箱舟」の関係で、スローフードといたしまして認定がされているところでございます。そして、また今現在、対馬のアナゴ、そしてノドグロが対馬の特産品として大きくクローズアップされておりますので、これらの対馬独特の特色ある食べ物、そして特産品等を広く広く発信をしまいたいというふうに計画をしているところでございます。まだまだ工夫が足りないというところもあろうかと思いますが、もう少しこれをブラッシュアップしながら、進めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（小川 廣康君） 2番、伊原徹君。

○議員（2番 伊原 徹君） ありがとうございます。

私の小学時代はまだ給食がない時代でございましたので、弁当持参でございました。弁当のおかずはミナ、ヒジキそれからノリのつくだ煮、白黒弁当という、で、やゆをされました。今考えますと、これらの食材は島の恵みそのものでございます。こういったことも含めて、少し食の提供が発信できるような、白黒弁当でございましたのでインスタ映えしませんけど、やはりインスタ映えできるような食、これを前端的に打ち出して、観光につなげていただければなというふうに考えております。

時間が余りございませんので、これは通告はしておりませんが、今の観光とそれから、この浄化槽関連との兼ね合いがございますので、時間ございますんで発言はよろしゅうございますか。答弁は結構でございます。少し時間がございますので発言を許していただきたいと思えます。

本定例会の会期中に行われました予算審査委員会及び私が所属しています産業建設常任委員会で、観光担当部局より予算の内容の御説明がございました。この予算委員会で感じたことございますが、先ほども申し述べましたが、島内人口の10倍以上の観光客が来島され、本市にもたらず経済効果は極めて高い反面、廃棄物処理や汚泥処理施設の処理能力が限界に達し、さらに水道使用量の増大により、固定資産の新設に要する高額な経費の予算計上など、厳しい財政を圧迫しております。新たな財源確保のため、例えば出国税や宿泊税を創設し、廃棄物処理及び汚泥処理施設等の固定資産取得財源に充当することも考えられます。

このことは、財政状況を含めまして6月の定例会での一般質問を予定をしておりますので、少しの間研究をなされて、いい答えが出るようにぜひお願いをしたいと思います。このことをお伝えいたしまして、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） これで伊原徹君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 暫時休憩します。再開は11時5分からといたします。

午前10時47分休憩

午前11時02分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。引き続き、市政一般質問を行います。

15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） こんにちは。未来研究会の15番、大浦でございます。

このたびの一般質問におきましては、私は通告を2件ほどの内容で示しておりましたが、その後、市の建設課のほうから、市営住宅の適切な管理について、このことを取り上げたことについては事前に協議を申し入れたいというふうな連絡がございまして、慎重に話し合いをした結果、いろいろな指摘事項についての今後徹底した指導を行うというふうな一つの話し合いのもとに、この件については今回、取り下げをいたします。

もう1件は、12月定例会で、私は博物館の建設に伴う乗降場所、この対応について、市のほうにお尋ねをしておりました。この3月の議会までにこのことがどのように進展していくのかなというふうなことで思っていたんですが、このことについて全くその内容は進展しておらないように感じられますが、とりあえず今まで取り組まれた担当部局、そして市長の報告の中で、本日この一般質問の席でそのことを聞いてみたいと、かように思っております。